

新生活スタートから2ヶ月か過ぎました。…

初夏から梅雨に入り、子ども達の遊びや生活が、落ち着いてきました。特にぶどう組さんは、進級後格段に行動範囲が増え、ただ見ることしかできなかった、領域に堂々と入り試すことが許されると有って、いろんな遊びを経験しています。例えば、のこぎり、トンカチ、段ボールカッター。絵の具を使って描く事、木漏れ日デッキに上がって製作ができることなど…毎日のように一通り回って試していました。

その分、怪我もしました。切ることや打つことに懸命過ぎて、押さえている左手のことを忘れるんですね。どの子も怪我をするのは、左手でした。それでも、泣く子はいません。そして、次の日は、また、絆創膏の手を忘れて挑戦していました。

このように、**お兄ちゃんやお姉ちゃんの遊びが、「憧れ」や「お手本」となり年下の子ども達に伝承されていきます。**たて割りクラス編成になってから4年目。**大人の介入を最小限に抑えると子ども達の育ちあいが際立っていることに改めて気付かされる毎日です。**

NO キャラクター、NO ヒーローを推奨する理由…

当園は、持ち物などのNO キャラクター、NO ヒーローを推奨しています。キャラクターや子ども向け番組のヒーローやヒロインのプリントがしてある持ち物に対して、子どもは独占力やこだわりが強く出る傾向があり、トラブルも多くありました。メーカーは、次々に購買欲を掻き立てる新商品を出してきます。テレビやメディアの文化は、切が無く家庭や子ども達の中に深く関わってきます。私は、31年の2月にこのような内容のお便りを出しています。

あれから……。子ども達の遊びや持ち物にテレビの影響が少なくなっているのを強く感じます。棒状のものを剣や銃に見立て、相手に向ける子どもは、ほとんど見ません。持ち物によるトラブルも無くなりました。保護者の方々の意識もあるのではないのでしょうか？本当にうれしく感じています。

園ではテレビの影響を受けない、純粋な遊びが展開しています。ままごとは、家庭や家族の模倣そのもの。〇〇ごっこは、社会の模倣です。遊びのために役を決めたり、必要な物を自分で作ったり…。子ども主体の素朴な遊びが存分に楽しめる環境を作っていきます。

よくあるご要望ご意見 Q&A

Q：水筒のお茶(水)を飲んでいないことがあったので、声かけをして欲しい。

A：午前食(昼食)や午後食(おやつ)では、季節を問わず必ずお茶が出て、確実に飲んでいきます。全く水分をとっていないことは有りませんが、冬場は、自分から水筒のお茶飲むことがなかったかもしれません。感染症や乾燥を防ぐためにも喉を潤すことは、大事なことです。声かけや促しをしていきます。また、これから暑さが増す中の水分補給もひとりひとりの丁寧な確認をしていきます。

Q：字や数字などの教育は、どうされていますか？(見学者の質問)

A：一般的に「教育」は、「文字や数字」のように学校の教科のようにイメージされる方が多いのではないのでしょうか？認定こども園で(幼稚園と保育園も同じ)行っている教育は、遊びです。これは、はっきりと国が打ち出しています。当園はこれに基づいて、環境を整えています。子ども達の自由な選択によるあそびの中で、子どもは、いろいろなことに触れ、気づき学びます。私達は、子ども達の学びが深まるように発達に合った玩具や遊びが拡がるコーナーを配置しています。

例えば、「数」。室内には、数や数字を連想させる玩具がたくさんです。パズル、カルタ、トランプ、積み木など。遊びやゲームをする中で自然に、「多い」、「少ない」や「3つの概念」から「10の概念」などを学び、習得します。6歳までは、ここまでで良いのです。座学でなく保育者が指導するでもなく、子どもは自ら遊びながら学びます。**文科省や厚労省、内閣府の示す、幼児教育のあり方を遵守することは、小学校へと続く、学びの姿勢への基礎を育てているのです。**